

平成30年度 自衛隊記念日観閲式

2018 Vol.4

TDA PRESS

栃木県防衛協会新聞



国旗を中心に陸海空3自衛隊をイメージしたものです
TOCHIGI DEFENSE ASSOCIATION

編集・発行 栃木県防衛協会
（事務局取次）
〒320-0043 栃木県宇都宮市桜5-1-13
自衛隊栃木地方協力本部
TEL: 028-634-3385 FAX: 028-634-3387
ホームページ <http://www.t-bouei.com> (検索)

□ニュースの提供/読者欄への投稿/ご意見・ご感想は上記へ



隊列を組み式典会場に入場する各部隊の行進

10月14日、自衛隊最高指揮官の安倍首相を迎え平成30年度自衛隊記念日観閲式が埼玉県の朝霞訓練場で行われた。首相は訓示で「自らの意思でこの困難な道に進んでくれた諸君。ただひたすら国民のため、献身的に職務を遂行する諸君は、日本の誇りだ」と全国25万人の隊員一人一人の高い使命感、強い責任感によって日本と日本国民は守られている」と称えた上で、「全ての自衛隊員が強い誇りを持って任務を全うできる環境を整えるのは、今を生きる政治家の責務だ」として、自らも全力を尽くす決意を表明した。その後隊員約4000人、車両約260両が観閲行進を行い、航空機約40機が観閲飛行を



観閲行進はWAPCを先頭に国際派遣部隊の行進から始まった。先頭車両の車上で指揮を執る、中央即応連隊石田広記連隊長



整列した陸空海の隊員約4000人の参加部隊に対しオープンカー上から巡閲を行う安倍総理。後席は竹本竜司1師団長

隊員が誇りを持てる環境を整える。首相が決意表明を行った。執行はこれまでの東部方面総監に代わり、今年新編された陸上総隊司令官の住田和明陸将が務めた。 (2面に関連記事)



栃木県防衛協会青木会長の挨拶



諸石正弘本部長の挨拶



作佐部健一副本部長による納杯のご発声

自衛隊栃木地方協力本部創立62周年祝賀会を開催

「感謝と飛躍」

自衛隊栃木地方協力本部（諸石正弘本部長）は11月10日、栃木地本創立62周年祝賀会を開催した。会場には、栃木地本の足跡を記したパネルが展示され、多くの関係者を迎えて祝賀会が盛大に執り行われた。諸石本部長は「現在一層厳しさを増す国内外情勢、少子・高齢化の急激な進捗等により、我々を取り巻く環境は益々厳しいものとなっている。しかしながら、将来にわたり我が国の平和と独立を守るべき自衛隊がその使命・任務を完遂するためには、国民の皆様の深いご理解と協力のもと、自衛官への有為な人材の安定的な確保と退職自衛官の最大限活用が不可欠。今後とも栃木地本は皆様の助力添えを頂きながら、統率方針「常に第一線としての意識の下、全ての部内外組織と総合一体化した任務の完遂」に邁進していきたい。」と挨拶した。

各面あんない

- 2 □観閲式での注目の装備品
- 3 □航空学校宇都宮校羽黒山登山走
- 4 □宇都宮支部が防衛講話
- 6 □グラフ「岐阜基地航空祭」

次号は2月28日付です
☆防衛省・自衛隊全般についてのお問い合わせは
自衛隊栃木地方協力本部 TEL: 028-634-3385へ

つれづれ考

平成最後となる年末。今年一年を振り返ると大きな災害が頻発した1年であった。◆給水支援、噴火、雪崩、除雪、家畜の疫病、山林火災、湖沼の燃料等回収、火山監視、航空機墜落、海外の津波被害、船舶による橋梁破壊に係る給水支援、台風、座礁船舶対処、各地における捜索・救難活動などに加え、度重なる大規模地震災害、広域に及ぶ記録的豪雨などで多くの人が苦しみました。◆立て続けに発災する難局に立ち向かい、人々を救う為に懸命に活動する自衛隊の力強い姿には心打たれた。◆災害へ対処する一方、自衛隊の本来の任務である国防の分野に関しても、防衛力の維持・強化の為の様々な活動・訓練、瀬取りの監視、海賊対処、領空・領海警護など、1年365日を通して絶え間なく活動する姿は有難く頼もしい。◆日本の為に「無くてはならない働き」を担ってきた自衛隊の存在を憲法に明記する事に異論を唱える人々の考えが理解しがたい。◆新しい年号の時代を迎える時、平穏な時代を願うと共に、どうか自衛隊が憲法に明記される時代になって欲しいと願う。

栃木県護国神社
〒320-0063 宇都宮市陽西町1-37(作新学院北側)
TEL028-622-3180(代) FAX028-627-3960

Sureであること
JCSS 認定事業者
株式会社 宝栄
TEL 028-665-4494 FAX 028-665-4495
〒320-0043 宇都宮市陽西町1-40-3
TEL 028-678-5445 FAX 028-665-5667
URL <http://www.houei.jp> E-mail info@houei.jp

自衛隊を応援します!
栃木県防衛協会青年部
部員募集中
自衛隊研修や各種活動を通じて自衛隊に対する理解を深めています。

観閲式における注目の装備品



ゲリラコマンド対処を想定し、88式鉄帽(FRP製)に暗視装置を取り付け、防弾チョッキ3型を装着した32普連の隊員



防衛大、高工校も64式小銃から89式小銃に切り替わった



車両行進に初登場の16式機動戦闘車(16MVCV)の大迫力の車列。74式戦車は観閲行進に姿を見せなくなり、時代の移り変わりを感じる



施設科の坑道掘削装置(ロードヘッダ)。陣地構築におけるトンネルの掘削に用いられる装備品である



12式地对艦誘導弾(12SSM)。離島防衛の要となる装備品で、GPS誘導を追加し高精度化が図られている



刷新された特別儀仗隊の新制服も初登場



展示エリアには米軍のLAV-Mが展示された。重迫撃砲を搭載するモーターキャリアーである。



迷彩塗装が異なる日米の水陸両用車AAV7が並走して行われた祝賀行進

ワック
WAC 登場
陸上自衛隊女性自衛官

第12特科隊 第1中隊通信班

あきもと まき
陸士長 秋元 眞樹 さん
千葉県市川市出身
趣味・特技 釣り

平成27年3月 朝霞駐屯地入隊
平成27年7月 宇都宮駐屯地 第12特科隊
平成27年10月 宇都宮駐屯地 第12特科隊 第1中隊 通信班

ひとこと

私は、入隊して4年目になります。宇都宮駐屯地の野戦特科部隊である、第12特科隊第1中隊に所属し、中隊の通信班で勤務しております。主な任務は、中隊と上級部隊との通信網の構成・維持・確保です。

通信の構成は、隊員間及び各部隊間の重要な通信手段であり、通信の構成ができていなければ部隊等の行動に大きな影響を与えるので、とても大事な任務だと思っています。通信の構成維持・確保は、非常に大変な任務ですが、任務達成のために日々訓練や体力錬成に励んでいます。

これからも、自衛官としての自覚を持ち、一步一步成長しながら皆様のお役に立てるよう頑張っていきたいと思っております。

●女性自衛官の略称●

陸自 WAC ワック
海自 WAVE ウェーブ
空自 WAF ワッフ



水に濡れる事を想定して作られた水陸機動団の装備



11式短距離地对空誘導弾。81短SAMの後継として制式化された装備で巡航ミサイルなどへの対処も可能となった。空自型は高機動車に搭載している



公式行事における日本初公開となる、空自3空団(三沢)より参加のF-35Aステルス戦闘機。4号機と9号機の2機が参加し、展示飛行も行い話題となった



敵のレーダーや通信を妨害する、電子スペクトラム戦用の「ネットワーク電子戦システム(Network Electronic Warfare System 通称:NEWS)」。自衛隊はこの分野で世界に遅れているので巻き返しが期待される

北海道地震の
災派が終了

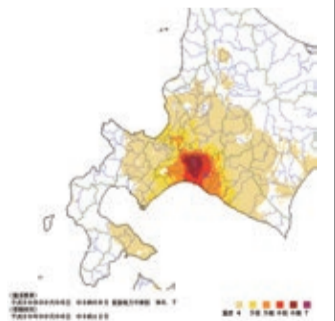
住民に見送られ自衛隊撤収
9月6日に発生した北海道胆振東部地震で、1カ月以上に亘り現地で活動してきた自衛隊は、10月14日午後11時に北海道知事からの撤収要請を受け、全ての活動を終了した。このうち最後まで支援が行われていたのは厚真町、安平町、むかわ町の3町で、各自治体で被災者への対応が可能になったことから、これまで給食、入浴、給水の各支援を行ってきた陸自第7後支連(東千歳)を中心とする災派部隊は15日までに撤収を完了した。被災地では活動の必要性が減ってきた事に伴い、13日にむかわ町、14日に厚真町、15日に安平町でそれぞれ部隊が撤収を開始、帰隊時には各町長より感謝の言葉が送られ、災派部隊は大勢の地元住民らに見送られて各駐屯地に引き揚げた。



大勢の町民に見送られ、むかわ町から撤収する災派部隊 [陸上自衛隊]



通信機器の技術者を現地に空輸する第12ヘリ隊(相馬原)のCH-47 [陸上自衛隊]



北海道胆振東部地震の震度分布図 [気象庁]

ニュース
ロシアのSu35戦闘機を初確認

9月19日、ロシア空軍のSu35戦闘機、Su24戦闘偵察機各1機と、アンノウン1機の計3機が、石川県能登半島沖から秋田県の男鹿半島の公海上を飛行したため、空自のF-15戦闘機が緊急発進して対応した。対領空侵犯措置で空自がSu35を確認したのは今回が初めて。

9月13日、海自の潜水艦「くろしお」はヘリ搭載護衛艦「かが」などと南シナ海で訓練を実施した。海自が同海域での潜水艦の訓練を公表するのは初めて。「くろしお」は「かが」護衛艦「いなづま」が「くろしお」と南シナ海で合流し、対潜訓練を行い、戦術技量の向上に励んだ。

陸自と英陸軍 国内で初の実動訓練
陸自と英陸軍は、9月30日から10月12日まで、北富士演習場と王城寺演習場などで日英共同の実動訓練「ヴィジラント・アイルズ」を行った。陸自が国内で英陸軍と訓練を実施するのは初めて。陸自は富士教導団などから隊員約60人、英軍は第1情報・偵察旅団(ロンドン)の約50名が参加した。

潜水艦「おうりゅう」進水
海自の平成27年度計画潜水艦(基準排水量2950トンの)命名・進水式が10月4日に神戸市の三菱重工神戸造船所で「おうりゅう」と命名され進水した。(艦番号は511)。「おうりゅう」は世界最大のディーゼル潜水艦「そうりゅう」型の11番艦。これまでの艦が搭載していたスターリンエンジンと鉛蓄電池の組み合わせに替り、蓄電池がリチウムイオン電池に改められ、長期間の潜航と出力アップが図られている。

航空学校宇都宮校羽黒山登山走

第五十七期陸曹航空操縦学生

北宇都宮駐屯地に所在する航空学校宇都宮校(木戸口和彦司令兼校長)は、陸曹航空操縦課程の前期教育の締めくくりに恒例行事である「羽黒山登山走」を10月3日、宇都宮市北部の羽黒山において実施した。

陸曹航空操縦課程は、陸上自衛隊に入隊後各部隊で通常数年間の勤務中に選抜を受けて陸曹に昇任し1年が経過した27歳未満の隊員が受験資格を得られるもので、部隊の種類に関係なく資格を満たせば誰でも受験可能。



登山走に気合がみなぎるFECの学生。羽黒山は標高458mの山であるが、近隣の他の山には無い絶妙な山道の長さ・距離と、勾配が有り、登山走には「絶好の」場所だ



成績優秀のカップを授与する木戸口校長。20名の学生全員が山を駆け上がった



羽黒山頂に鎮座する羽黒山神社本殿前にて、登山走を終えて記念写真に納まる#57-1陸曹操縦学生と、応援に駆け付けた協力団体の方々

時点で「飛行幹部候補生」に指定される。他の陸曹から幹部候補生になるには自衛隊内部の試験に合格しなければならぬが、ウイングマークを取得した陸曹に対しての幹部候補生の内部試験はない。ウイングマークを取得した後は操縦士として自衛隊で勤務することが大前提であるので、操縦士は幹部になることが必須なのだ。

今回羽黒山登山走を現地で応援した栃木県防衛協会青木勲会長へ、木戸口和彦航空学校宇都宮校長より御礼の挨拶が送られた。(以下引用)

拝啓 秋冷の候、栃木県防衛協会会長 青木様におかれましては、ますます御清勝のこととお慶び申し上げます。さて、第五十七期陸曹航空操縦学生の羽黒山登山走に際しまして、激励、ご支援

など格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。当日は天候にも恵まれ、おかげさまで、二十名の学生全員が元気に羽黒山に駆け上がり、自衛官としての体力・気力の充実及び克己心の涵養を図ることができました。学生は、十月から実機による操縦が始まります。将来の陸上航空を牽引し得る立派な航空戦士を育成できるよう職員一同頑張っております。今後とも変わらぬご支援・ご厚誼のほど、お願い申し上げますとともに、皆様のますますのご健勝とご多幸を祈念申し上げます、お礼のご挨拶とさせていただきます。

平成三十年十月吉日
航空学校宇都宮校長
一等陸佐 木戸口 和彦 謹白

宇都宮駐屯地防衛記念館で清掃奉仕活動

青年部4回目の清掃活動を実施
栃木県防衛協会青年部(若目田英巳部長)は10月13日、宇都宮駐屯地内の防衛記念館において4回目となる清掃活動を実施した。参加者は清掃に先立ち殉職隊員慰霊碑を参拝し、国防に殉じた隊員の御霊に哀悼の誠を捧げた。



1年の苔と落ち葉を掃除して、清々しい気持ちと達成感を味わう参加者



殉職隊員慰霊碑に参拝する参加者



懐かしい奥村1佐と共に、参加者と記念撮影

下志津駐屯地で部隊研修
栃木県防衛協会青年部(若目田英巳部長)は9月27日、下志津駐屯地において部隊研修を実施した。下志津駐屯地では元栃木地本部長の奥村晶一1等陸佐の出迎えもあり、有意義な研修を行えた。

(若目田青年部長の感想)

下志津駐屯地研修で高射特科部隊の役割をよく理解することができました。装輪装甲車の体験搭乗、ホーク地区見学、資料館見学。現地に行かなければ聞けない生の声を聞くことができました。帰りのバスの中で、「最後は人の目」という言葉の重さをみんなで話し合いました。高射特科の任務の重大さと、それを完遂するためには、どのような覚悟が必要なのか、隊員の皆さんやそのご家族の気持ちを考えるに至り、青年部は自衛隊支援の気持ちを持ち、熱くした次第です。(GSM-17の臨場感、撃たれたときの衝撃は強烈でした) 今回の研修を糧に、防衛協会はもとより、友人知人にも自衛隊の必要性を訴え、一人でも多くの理解者を得られるよう努力します。

話題の本

『自衛隊防災BOOK』

(自衛隊/防衛省協力)



危機管理のプロ・自衛隊のノウハウを初公開! 地震、台風、大雨、崖崩れ……。いっどこで起こるか分からない、さまざまな大災害。心強い危機管理のプロフェッショナルである自衛隊。人命救助はもちろんのこと、食料の確保や給水、緊急措置など、災害時のトラブルに対処するさまざまなテクニックやアイデアを持っているのが自衛隊だ。

災害時に必要な事は、まず自分の身を守る「自助」そして、共に助け合う「共助」である。自助・共助の観点からも、私たちでも簡単に取り入れることのできる、ピンチに役立つノウハウをピックアップした本である。

・地震発生時、真っ先にとるべき行動・発災時、子供や高齢者と避難する方法・シャツを浮き輪代わりにする方法・一人だけが人を運ぶ方法・遭難時、生存率がアップする方法・ハチに刺されたときの対処法:

このように、災害時や日常生活に役立つ100のテクニックを収録。あなたやあなたの大切な人を守る必携の一冊です!

(マガジンハウス 2018/8/9 一六〇円)

宇都宮支部が防衛講話を開催

防衛協会宇都宮支部（大谷守支部長）は10月13日、宇都宮市の護国会館で防衛講話を開催した。大谷支部長の挨拶に続き、自衛隊栃木地方協力本部募集課 安嶋幹一等海曹を講師に「潜水艦について」と題して防衛講話を行った。自衛隊の中でも機密事項が多

い潜水艦の話とあって、講話に関する映像資料はもちろん記録禁止。講話の内容も機密に係る部分は絶妙に伏せられていたが、海上自衛隊における潜水艦の歴史、役割や抑止力を担っている現状などが非常に分かりやすく解説され、興味深い内容の講話であった。

するどい質疑応答を無難に終えた安嶋講師の顔には安堵の表情が浮かんでいた。講話の後、会場を移して懇親会が開かれ、諸石正弘地本部長、担当の地本自衛官などを交えて歓談した。



廣田事務局長



諸石地本部長



講師の安嶋幹一等海曹



講演に先立ち挨拶する大谷支部長



全国防衛協会連合会女性部研修大会

防衛協会女性部（野沢京子部長）は、全国防衛協会連合会女性部研修大会に参加した。大会は東京都で行われ、研修では市ヶ谷の防衛省を視

察、翌日には自衛隊音楽まつりを観覧した。懇親会では第12旅団長田尻陸将補などとも交流を深め、有意義な研修となった。



懇親会にて、第12旅団長田尻陸将補と、石破夫人との記念写真

平成三十年度栃木県自衛隊殉職隊員追悼式

無災害の願いを込め 宇都宮駐屯地

宇都宮駐屯地（小田島邦弘駐屯地司令）において10月5日、栃木県隊友会と共催で平成三十年度栃木県自衛隊殉職

隊員追悼式が駐屯地内に在る慰霊碑前で厳粛に執り行われた。



執行者の小田島司令が「国家防衛という崇高な任務の最中、我が国の為に尊い命を捧げられた先輩隊員の御霊が、ここ宇都宮駐屯地に祀られている。何れの方々も自衛官としての誇りと使命感を胸に奮闘努力された精鋭達。前途有意な隊員を失った事は自衛隊、我が国にとって大きな痛手であった。私たちはこのよう

静内駐屯地創立記念行事（静内対空射撃場）

公開日に実弾射撃を披露

7月8日に、北海道の静内対空射撃場において、静内駐屯地創設54周年・第7高射特科連隊創設37周年記念行事が行われた。

対空実射訓練公開では87AWの35mm機関砲や、81短SAMの誘導弾射撃などが披露された。

駐屯地の記念行事で実弾射撃が見られるとあって、多くの見学者が訪れ、賑わった。



高速標的機CHUKA-III（チャカ3）の発射。曳航する標的が発するフレアを短SAMが狙う。富士重工宇都宮製作所で生産されたもの。



曳航標的に対する81短SAMの実弾射撃。かなり大きな発射音に見物人がどよめく



87AWの35mm機関砲の射撃。近くで見ると想像以上に迫力のある大音響だ



11月3日、人間基地航空祭において飛行展示を行う記念塗装機（撮影：青年部 坪山豊）

人間基地60周年記念 C-11記念塗装機が登場

第402飛行隊第2輸送航空隊

創設60周年を記念した11月3日の人間基地航空祭に合わせ、第2輸送航空隊が保有するC-11輸送機（R-1206）に記念塗装が施されて話題となった。

特別塗装は歌舞伎の絵柄をモチーフにした紅白が基調の日本的なデザイン。航空祭にはフライトも行われ、多くの観客が青空に映える「歌舞伎」デザインのC-11による飛行展示を楽しんだ。

航空祭の後にも、度々この特別塗装機による全国各地の空自基地へのフライト情報「Twitterのオフィシャルサイト」「航空自衛隊人間基地（Official）@jsdf_jrma」にて事前に公表され、全国各地の航空ファンがその姿を一目見ようと見物に訪れた。空自がフライト情報を公表するのは珍しい。

シリーズ 栃木県郷土防衛史 (2)

日本本土初空襲 「ドーリットル空襲」と栃木県

栃木県防衛協会青年部 大気高木

多くの人は「日本本土空襲」と聞くと大戦末期のB-29による空襲を連想するであろう。だが、日本史上初の本土空襲である「ドーリットル空襲」も日本にとっては衝撃的な出来事であった。ドーリットル空襲は昭和17年4月18日に米軍により実施され、その名称は爆撃隊指揮官ジミー・ドーリットル中佐に由来する。

◆日本海軍によるアメリカ本土攻撃

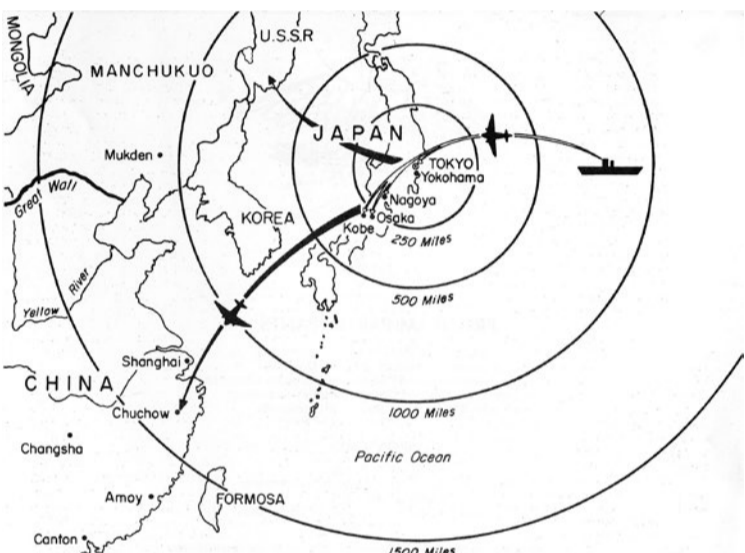
昭和16年12月8日の日米開戦に伴い開始された、日本海軍潜水艦による連合国船舶に対する通商破壊戦は米本土沿岸にまで及び、カリフォルニア沿岸では日本軍潜水艦によ



アメリカでは今でもB-25爆撃機が飛行可能な状態で動態保存されている。(筆者撮影)



空母「ホーネット」を発艦し日本を目指すB-25 (米軍撮影)



ドーリットル隊の行動記録。当時の海軍艦載機の航続距離では不可能な作戦である。



西那須野駅東で爆弾が炸裂した瞬間を捉えた写真。B-25より撮影したもの(米軍撮影)



米軍撮影の写真と、現在の同じ場所を比較した西那須野駅東の地区の様子。(googleより)

ランシスコを出港。日本に対する空襲は4月18日の夜間に実施する予定であったが、18日の早朝、機動部隊はいきなり日本軍の哨戒艇に発見されてしまい、無線電文での通報を許してしまふ。

米軍は爆撃計画を予定より7時間早めて開始し、午前7時にB-25の発艦を開始、最後の1機を午前8時19分に発艦させた後、艦隊は直ちに反転し退避した。

ドーリットル率いるB-25爆撃機16機は東京府東京市、神奈川県横浜市、川崎市、横須賀市、愛知県名古屋、兵庫県神戸市などを爆撃したが、照準ミスや進路変更などにより当初の軍事目標以外の場所を爆撃した機も少なかった。

低空で単独行動をとるB-25は捕捉困難で、不意を突かれた日本軍当局は来襲機の機数も、発進位置も探れずに混乱に陥った。まさか空母から陸上機が発艦するなどは、全く想定していなかったため遭遇したのである。

ある。

◆東條英機首相搭乗機と遭遇

昭和17年4月17日の夕方、東條英機首相が宇都宮駅に降り立った。東條首相はすぐに迎えの車に乗らずに、ゴミ箱の中を覗き、集まった児童に話し掛けた。当時の新聞はその様子を「首相、学童を奇襲」の見出しで平和なひと時として報じた。

東條首相は翌18日に「栃木県庁・清原飛行場」↓「茨城県庁・水戸航空通信学校」↓「中島飛行機太田製作所」↓「立川飛行場」のコースで視察を行う予定であった。

予定通り18日朝に栃木県庁を訪問し、全職員に対して訓示を行なった後、第14師団、宇都宮陸軍飛行学校・宇都宮陸軍航空支隊を視察し、正午に清原飛行場を離陸して15分後に水戸航空通信学校へ到着した。この宇都宮→水戸間の15分の飛行中に東條機はドーリットル隊のB-25と遭遇したのである。

午後0時04分、茨城県上空で東條機の真正面をB-25が横切り、その後2番機とも距離を置いてすれ違った。もしB-25が南向きにコースを変えなかったら両機はまともに至近距離ですれ違い交戦していたかもしれない。数分の差で東條機墜落という最悪の事態が回避された。東條首相は「敵機帝都方面空襲事件」を受け、視察を取りやめて鉄路にて東京に戻った。

◆8番機が西那須野駅前に爆弾を投下

B-25の8番機(機長・エドワードJ・ヨーク大尉)は、午前7時46分に空母ホーネットを発艦、鹿島灘から午後0時40分に本土に侵入したが、燃料が急激に減るトラブルが発生したため中国沿岸行きを断念し、極東ソ連沿岸に向かう決心をした。

北寄りに進路を変更して栃木県内を通過中に、進路上に発見した西那須野駅を目標として、午後1時30分頃に1発

目の爆弾を投下、この爆弾は西那須野駅の約100m東の畑で爆発し、畑には直径約9m、深さ2mの穴が開いた。東に30m離れた八木澤勇氏宅では爆風により戸や障子が吹き飛ばされる被害を受けたが、家人は留守で人的被害は無かった。8番機のその後の飛行経路も山ばかりで、爆撃目標になるような大きな建物もなく、残りの爆弾と焼夷弾は新潟県の阿賀野川鉄橋付近に投下された。

攻撃を終えた8番機はソ連のウラジオストク北部に不時着したが、乗員は「ソ連が日本と戦争状態に無い」という理由で市警察当局に捕まり極東赤軍により拘束された。その後ベンザ、モロトフを経てペルシャ国境付近のアシヤカバットに移ったところでロシア市民の手助けにより脱出しイラクに逃れ、昭和18年5月29日に米軍に無事に生還を果たす。

機体は「使い捨て」の扱いだったので、米軍は機密扱いの爆撃照準器「ノルデン照準器」を搭載せず、代わりにアルミ製の簡易爆撃照準器を搭載していた。もし8番機が高性能のノルデン照準器を使用していたならば、西那須野駅に正確に爆弾が命中していたかもしれない。また、西那須野周辺には大山巖元帥の墓所や乃木神社など、日本陸軍所縁の施設があったことから、日本側は8番機が単なるトラブルにより進路変更を行ったとは知る由もなく、この地に対する明確な意図を持った攻撃だと考えていたのであった。

参考文献

- 戦史叢書「本土坊空作戦」防衛庁防衛研究所戦史室 World War II Database (webサイト)
- 日米全調査「ドーリットル空襲秘録」柴田武彦 原勝洋一共書
- 「那須の太平洋戦争」北那須郷土史研究会

特集 グラフ

2018年 岐阜基地航空祭 11/18

2018年11月18日(日)、晴天の航空自衛隊岐阜基地において14万5,000人の来場者を迎えて「岐阜基地航空祭 2018」が開催された。岐阜基地には飛行開発実験団が所在することから、航空祭では様々な種類の航空機の機動飛行や異機種大編隊などの飛行展示を見ることができると特徴で、今年はそれに加えてブルーインパルスの展示飛行も行われ、観客を魅了した。

今年の航空祭企画では、岐阜基地を題材としたアニメ「ひそねとまそたん」のトークライブにアニメ総監督の樋口真嗣さん、甘粕ひそね役の久野美咲さんが一日飛実団司令として出演したほか、「ひそねとまそたん」をコクピット下に描いたF-15記念塗装機が登場した。地上展示では、将来の国産戦闘機開発に必要な要素技術を実証するために開発されたステルス研究機X-2(先進技術実証機)の展示も行われ、岐阜基地らしい充実した内容の航空祭となった。



快晴の岐阜の空で爆音高らかにキレイのある機動飛行を披露する飛実団所属のF-15DJ



展示された先進技術実証機「X-2」。基本的耐空性、ステルス性、高速運動性の確認のために開発された国産機であり、日本の航空技術水準を高めるために大切な役割を果たす事が期待される。



「まそたん」のスペシャルマーキングを施されたF-15J。機番999はアニメ作品にちなんだ番号に書き換えられたものらしい。



飛行を終え、オーバーヘッドで着陸態勢に入るF-2A(2号機)、F-2B(初号機)、そして「まそたん」塗装のF-15が2機。



第1区分で一糸乱れぬ展示飛行を行うブルーインパルス。美しい光景に観客からどよめきと歓声が上がる。



機動飛行を行うF-2Aの2号機。初号機と2号機は特別な塗装を施した試験機として岐阜で活躍している。



C-1の初号機を改造した試験機「C-1FTB」(フライト・テスト・ベッド)全面銀色の機体が眩しい。



お隣の小牧基地より飛来した第404飛行隊所属のKC-767Jと岐阜基地の飛実団所属の戦闘機(F-2A F-15J F-4EJ)による、空中給油を模した航過飛行展示。



岐阜基地航空祭の名物である「異機種大編隊」の航過飛行。C-1、T-4、F-4、F-2、F-15の各タイプが集合して隊形を取り、フライパスする姿は圧巻。